



+らiふ ニュース 令和2年度 春号



(編集・発行)令和2年5月発行
相談支援事業所 宮城野雲母倶楽部+らiふ
〒983-0012 仙台市宮城野区出花1丁目3-11
TEL/FAX : 022-254-6757
HP : <http://kilala.biz/>
編集責任者 秋保 明

新年度のご挨拶

皆様には、日頃より当所の運営にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、今年度もご指導ご鞭撻方よろしくお願ひ申し上げます。

さて、仙台市におきましては、今年度から「基幹相談支援センター」が仙台市障害者総合支援センター(ウェルポート仙台)内に設置され、支援困難な事例へのサポートや研修の企画実施など、私たち相談支援事業所にとっても心強い事業が開始されることになっております。しかし、折からの新型コロナウイルス感染拡大防止のために、事前説明会が中止され、具体の活動開始の時期は予定よりかなり先となりそうな状況です。

障害福祉サービスについても、通所系サービスを中心としてやむなく休業や新規受け入れ中止を行っている施設もありますが、様々な不安や生活リズムが狂うことにより、体調を崩される方が多くおられるのではないかと危惧されます。従って事業所に対してはマスクや消毒液の確保・減収に伴う施設収入や利用者の工賃に対する補償など、支援が途切れないよう国が責任を持ってスピーディに対応して欲しいと思います。

当所におきましては、感染拡大防止策に十分留意しながら、これまで通り訪問や来所相談を行っておりますが、何か不安や困りごとがある時は遠慮なくお電話などでご相談下さい。

新型コロナウイルス問題では様々な混乱や社会不安が起こり、多くの方が精神的ストレスを抱えておられます。このような時には「家族や親しい友人と話す」「十分な食事や睡眠をとり、適度な運動を心掛ける」「正しい情報と知識を持ち、不安を煽るメディアを見る時間を減らす」などが大事だそうです。(出展：WHO 世界保健機構パンフ)

末筆ながら、皆様のご自愛の程心よりお祈り申し上げます。

令和2年5月

宮城野雲母倶楽部+らiふ 施設長 秋保 明

投稿コーナー

このコーナーでは利用者の皆様のお声を載せていきます！

ペンネーム・そらさんの体験談から見えないつらさや不便さ、だれにでも起こり得ることであること、どのように乗り越え今の自分があるのかを伝えていきます。

【 あべこべ 】 そらさん No.11

静かになった近所を歩いていると夢の中にいる気がします。昨日まで家にこもり、人づきあいたくない人は変人のように見なされていたのに今は感染対策とはいえ世界中在宅が奨励されているのですから。報道で家庭内DVの増加も知りました。人は体験して初めて他者の痛みがわかるのでしょうか、これからは私のような前から外出しにくかったほうの人達の苦悩も共感されやすくなり、人間の幅広い生き方がより考えられていくのかなと災いの中でも思ってみました。今まで体験なくともずっと理解し難い物事を理解しようとしてきた人達を改めて敬います。

お知らせ



運営日及び運営時間について

令和2年4月1日より運営日及び運営時間が下記の通り変更となりました。

○運営日
月～土(祝日を除く)
日・祝：休業(電話相談を含む)

○運営時間
相談：9:30～17:30
(面接相談は17時まで)
サロン：10:00～17:00

仙台市障害者自立支援協議会の取組み

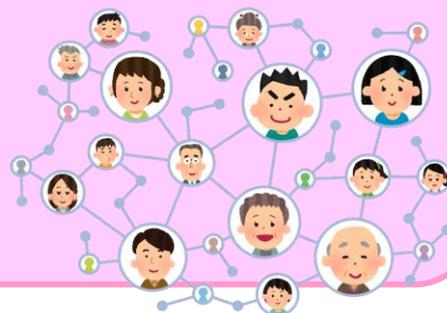
仙台市障害者自立支援協議会は、障害のある方が住み慣れた地域で生活が送れるように地域の実情に応じた支援体制について協議し、整備を図ることを目的としています。

令和2年3月18日に行われた第2回仙台市障害者自立支援協議会では今年度の取組みを共有し、次年度の取組みについて議論が行われました。

地域課題解決に向けた取組み

○近年、高齢者が同居する障害者を介護する等の問題が顕在化しており、障害分野のみでのネットワーク支援ではなく高齢分などとの他分野ともネットワークの構築が必要となってきています。高齢分野や民生委員などと、区自立協の取組みや相手のフィールドに赴いて活動するなどをして効果的な連携について共有しました。取組みを通して「障害者支援という分野や職種にこだわることなく、地域の中で起きていることに視点を向けその活動に参加していくことが垣根の無い支援につながっていく」「他分野との協働ケースは複数の問題が絡み合い、既に複雑化していることが多いため、更なる多機関連携により世帯全体へのアプローチが求められる」「区自立協の活動などにより一定の障害理解が進んでいるが、地域で生活する当事者と接する機会は少なくかかわり方への不安や戸惑いの声が聞かれている」など成果や課題を共有しました。

○個別性が求められるニーズと社会資源を適切につなぐ仕組み作りを検討しました。他分野との協働支援により幅広い情報から必要な資源を丁寧につないでいくことで、個別性の高いニーズにおいても必要な資源と適切につないでいけるのではないかと他分野協働やニーズの背景を辿るアセスメントの必要性を整理しました。



障害のある方が地域で孤立しないよう相談支援体制の強化

○緊急時の居住支援や緊急対応の体制整備、利用の事前登録やこれをきっかけとした予防的かかわりを通じて、障害児者が地域で孤立することなく住み慣れた環境で暮らし続けられるよう地域生活支援拠点モデル事業を青葉区で運営しています。今年度は予防的なかかわりの対象範囲を全区に拡大し本格実施に向け在り方を検討しました。

○多機関協働のケースレビューを各区自立協で展開し、支援声が自ら上げられない方や複数課題を抱えている世帯など重点的なかかわりが必要な人へ支援がこぼれ落ちないようにする取組みを行っています。地域生活支援拠点モデル事業の予防的なかかわりとも絡み合わせ対象となるようなケース像を共有しました。



支援者の人材育成に係る取組み

○仙台市で実施している障害者ケアマネジメント養成研修の体系の見直しを行いました。これまでは相談支援に従事する人を主な対象者としていましたが、今後は障害福祉に関わる全ての担い手とし受講対象者を拡大することで全体的なスキルアップを図ります。その他、研修受講の目安を経験年数ごとに分けてきましたが、今後は受講者が自ら選択して受けることで、それぞれが必要に感じていることを積極的に学べるような体系などへと変更されます。

○相談支援の質の向上を目的に障害者相談支援事業所自己運営評価を毎年実施し、他事業所と共有する機会を設けています。自分たちの事業所の強みや課題となっている部分を再確認し、他の事業所や自分の事業所の良い取組みを学び・教え合う場となっています。